

伊賀流自治の視点

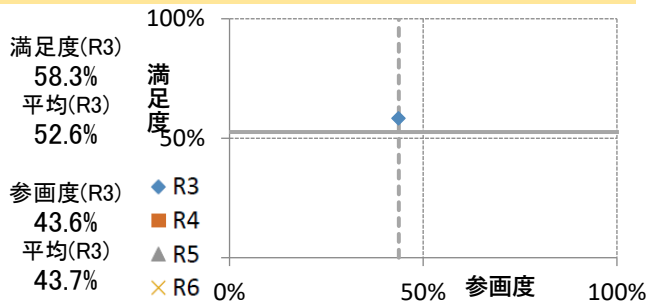
【主担当部局】

地域連携部

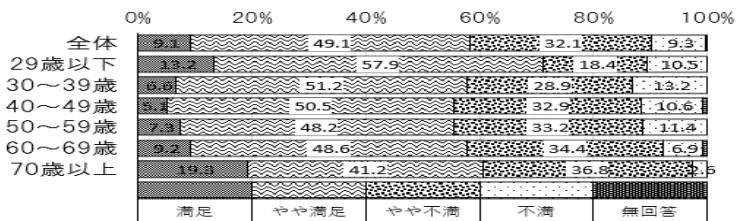
- ・住民自治協議会が自主自立した地域づくりを行うため、地域の課題解決や情勢の変化に迅速に対応したサポートを行います。
- ・市民公益活動団体等の、安定的、持続的な活動を支援します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021(R3)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	住民自治 住民自治協議会に対し、住民自治に関する研修会や勉強会を開催し、住民自治活動の活性化を図り活動への参画を促進するとともに、住民自治活動の拠点となる地区市民センターの指定管理者制度の導入をめざします。 また、持続可能な地域づくりに向けて、地域包括交付金やキラッと輝け！地域応援補助金などの財政支援を行うとともに、地域担当職員や市民活動支援センターでの相談体制を充実させることにより、住民自治活動を支援します。	○住民自治協議会推進経費 ・地域まちづくり計画の進行管理 ・地域包括交付金やキラッと輝け！地域応援補助金等による財政支援 ○自治振興経費 ・公民館建設費補助事業 ・コミュニティ助成事業 ○地区市民センター維持管理経費 ・地区市民センター運営管理 ・指定管理者制度導入支援 ○地区市民センター施設改修事業 ・第2期実行計画に基づく整備	成果指標	キラッと輝け！地域応援補助金 申請件数					
			成果指標の説明	令和元年度の申請件数を起算値として、団体からの補助金申請件数の累計値					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(件)	11	42				81
2	市民活動 市民活動支援センターにおいて、市民活動団体の活動内容などの情報を積極的に発信することで、市民活動に対する市民の関心を高め、自主的なまちづくり活動への参加を推進します。また、各種研修会の開催や市民活動支援員による相談体制の充実を図り、市民活動団体の活性化を促進します。 市民の自主的なまちづくり活動を支援し、個性的で魅力あふれる地域づくりを推進するため、地域活動支援事業を実施し、市民活動団体の継続的な活動をサポートします。	○ゆめぼりすセンター維持管理経費 ・ゆめぼりすセンター運営管理 ・市民活動支援センター運営管理 ○地域活動支援事業 ・地域活動支援事業補助事業 ・N-1グランプリ開催事業	成果指標	市民活動支援センター 利用件数					
			成果指標の説明	市民活動相談件数、情報交流スペース利用件数、印刷機利用件数の合計件数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(件)	1,307	950				1,372
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

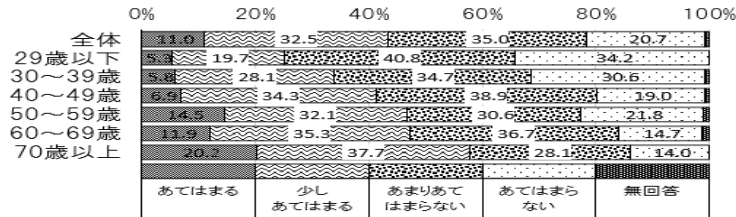
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R3)



参画度(R3)



傾向

- ・満足度、参画度とも決して高いとは言えない。
- ・40歳以上49歳以下の満足度が低い。
- ・49歳以下の参画度が低い。

【CHECK②】

【ACTION】

【事業の進捗】

効果検証			事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	地域包括交付金を段階的に減額して交付している中、キラッと輝け！地域応援補助金を活用し、地域まちづくり計画の見直しやコミュニティビジネスの検討を行う住民自治協議会が年々増えている。また、令和4年度から8地区の市民センターで、センターが所在する地域の住民自治協議会により指定管理業務が開始されることとなった。	・地域包括交付金やキラッと輝け！地域応援補助金等の財政支援の見直し。 ・地区市民センター指定管理者制度導入の推進 ・住民自治協議会労務・税務相談の実施 ・地区市民センターのインターネット環境整備	計画通り進めている
	課題	新型コロナウイルス感染症の影響により、住民自治活動にも多大な影響が生じている。持続可能な地域づくりに向けて、「新しい生活様式」などを意識した住民自治活動を実施いただく必要があることから、そのための支援についても地域のニーズを把握した見直しを検討する必要がある。		
2	効果が出ている点	市民活動支援センターにおいて、会員・団体間の交流の場として「情報交流スペース」を開放している。利用団体の多くが広報紙等作成にセンターの印刷機を利用し、限られた活動資金の中で印刷機の購入や有料講義室の使用が困難な団体にとって有益な支援となった。また、新たに「N-1グランプリ」を創設し事業を展開したことで、令和4年度地域活動支援事業補助金への問い合わせや応募団体が増えた。	・市民活動支援センターホームページ新規開設などによる情報発信力の強化 ・「N-1グランプリ」事業の定住自立圏域連携町村との連携強化 ・市民活動への若者の関心を高め、参加・参画に繋げる施策の検討 ・ゆめぼりすセンター（市民活動支援センター）のあり方の検討	計画通り進めている
	課題	少子高齢化の進展により、市民活動団体の構成員の高齢化が進み、特にコロナ禍においては活動の継続性が危惧されている。そのような状況の中で、各団体の活動を維持するためにも、市民活動支援センターの利用促進と市民活動支援員のスキルアップ及び相談体制の充実が必要となり、中間支援窓口としての施設の効果的・効率的な運用が必要である。		
3				
4				

伊賀流自治の視点

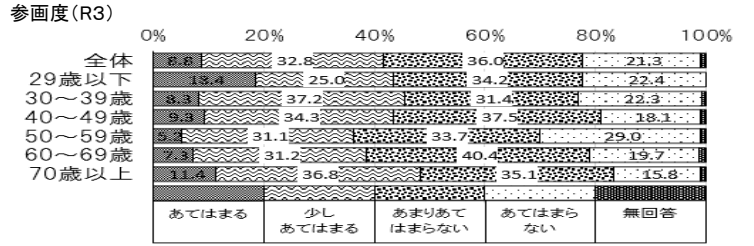
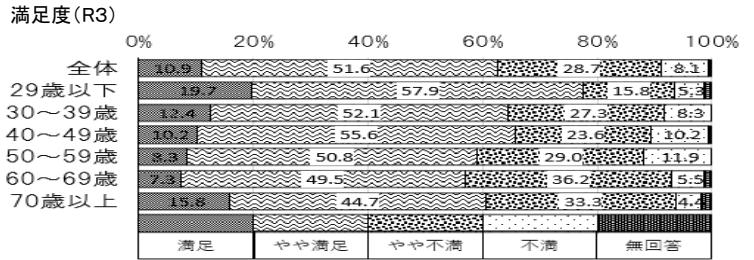
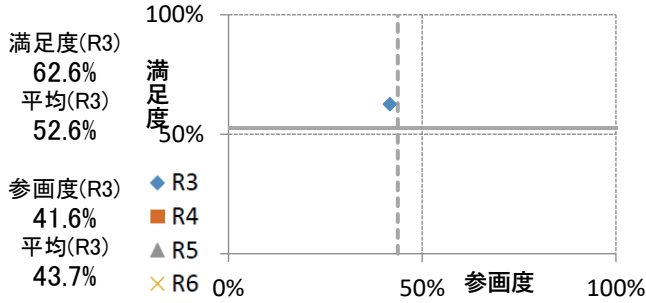
【主担当部局】

人権生活環境部

- ・多言語だけでなく「やさしい日本語」での対応を広めるとともに、外国人住民の生活をサポートする機能を充実させるなど、必要な情報を提供できる体制を構築します。
- ・外国人住民に自治会への加入を促し、地域コミュニティの一員として社会参画できるまちづくりを支援します。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021(R3)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	多文化交流 多文化共生社会の実現に向け、(仮称)伊賀市多文化共生指針に基づき、伊賀市国際交流協会やNPO等と連携し、多文化理解を深めるための講座やイベント等を実施します。また、多文化共生社会を推進するサポーターを養成し、地域や学校等での多文化交流を促進します。	○多文化共生推進事業 ○多文化共生センター管理運営経費 ・外国人とのコミュニケーションや文化を紹介する多文化共生理解事業を行った。 ・出前講座を市内小学校、高校等で実施した。 ・交流事業を国際交流協会へ委託し実施した。 ・「伊賀市多文化共生指針」を8月に策定し、11月から「伊賀市多文化共生推進プラン」の策定に着手した。 ・漢字教室や学習支援教室のボランティア養成講座を行った。	成果指標	日本人との交流がある外国人の割合					
			成果指標の説明	外国人住民アンケートで「市内に住む日本人とどのような付き合いがありますか」の設問において、「日常生活の話(世間話)をする」「困ったときに助け合っている」「家族同様に親しく付き合っている」と答えた人の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	22.8	56				30.0
2	外国人住民への支援 伊賀市多文化共生センターにおいて、多言語での相談や生活支援を行うほか、必要な情報を集約し、発信するなど外国人住民への支援の充実を図ります。また、多文化共生にかかる日本人の相談窓口としての機能を充実させ、人や文化の交流を促進します。	○多文化共生推進事業 ○多文化共生センター管理運営経費 ・伊賀市多文化共生センターにおいて、健康推進・子育て支援等の部局との一元的相談窓口で相談事業を行った。 ・新型コロナウイルス感染症感染防止対策などの各種情報をSNSなどの媒体を活用し多言語で提供した。 ・LOGOチャット等で、コロナワクチン集団接種予約やマイナンバーカード申請書予約など多言語で実施した。 ・テレビ通訳、AI翻訳を13言語まで対応できる業務を委託した。	成果指標	伊賀市に住んでよかったと感じている外国人の割合					
			成果指標の説明	外国人住民アンケートで「伊賀市に住んでよかったと感じていますか」の設問において、「とても感じている」または「だいたい感じている」と答えた人の割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	79.8	92				84.0
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

まちづくりアンケート調査結果



傾向

- ・50歳以上59歳以下の満足度が低い。
- ・50歳以上59歳以下の参画度が低い。

【CHECK②】

【ACTION】

【事業の進捗】

	効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	自治会から地域の外国人への通知等の翻訳依頼があり、地域の住民として受け入れ共生していこうとする行動がみられる。(R3年度実績:5地区3言語、15件) 学校においても、社会見学や多文化理解出前講座などの機会をもち多文化共生の理解を深めている。外国人からのボランティア参加や地域活動に関する問い合わせも増えている。(国際交流フェスタ、多文化理解講座、地域のスポーツクラブへの加入など)	・多文化共生の取り組みを明確化するため、「伊賀市多文化共生推進プラン」の策定を進める。	計画通り進めている
2	課題	・互いの文化背景や多様性を認め合い、住みよさが実感できる多文化共生社会の実現に向け、市民、住民自治協議会、各種団体、行政など「オール伊賀市」で取り組むための施策や協力体制などのプランが定められていない。		
3	効果が出ている点	伊賀市多文化共生センターの移転により、既存施設との一元的相談窓口の拡充が出来た。また、タブレット端末、映像通訳アプリ等の導入を行ったことにより、コロナ禍で非対面による通訳業務などが円滑に行えた。外国につながる児童生徒のための学習支援について、従来の「ささゆり教室」に加え、「日本語指導教室(漢字学習支援教室)」を外務委託により新しく開設した。実績とノウハウがある団体に委託することで持続可能な支援が期待できる。	・外国人相談の効率化を図るため、多文化共生センターの更なる周知を行い、本庁の相談件数の分散化を図る。 また、センターと本庁との連携手段等についてICTを活用することによりDX化を図る。 ・多文化共生センターの活動内容を市民に周知し、ボランティア等の協力者を増やしていく。	計画通り進めている
4	課題	・コロナ禍の中、相談件数が倍増しており、相談手法やDXを活用した手法の多様化を検討し効率化を図る必要がある。 ・多文化共生センターを活用した事業を行っていくうえで、ボランティア育成が必要である。		
5				

伊賀流自治の視点

【主担当部局】

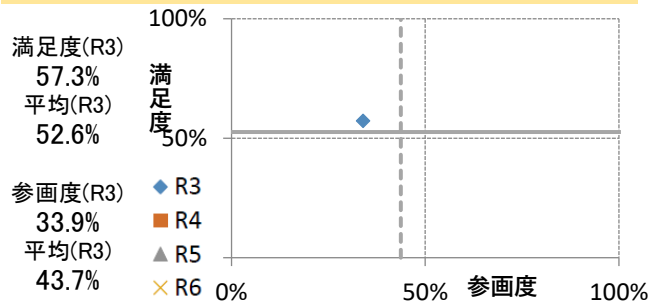
企画振興部

・市民誰もが暮らしの中で文化・芸術に触れることにより豊かな感性と創造力を育むことができるよう、機会の提供と充実に努めます。

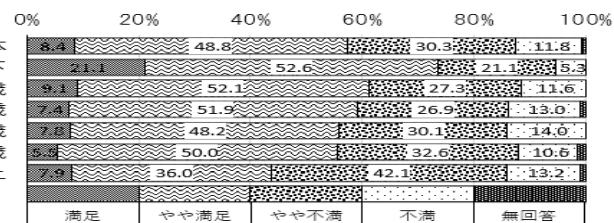
・市民の文化・芸術意識の向上を図り、情報発信や人材育成等に取り組むことで、さまざまな文化・芸術の継承・創造を促し、まちづくりや産業に活かします。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021(R3)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	文化・芸術振興 文化振興ビジョン及び文化振興条例を踏まえた文化振興プランを策定し、それに沿って文化・芸術振興の具体的な取り組みを進めることで、市民の文化・芸術意識の向上を図ります。文化振興ビジョンで、伊賀市の文化振興の中心的存在と位置付けられた(公財)伊賀市文化都市協会などと連携し、市民が芸術に触れる機会を提供します。市民、芸術団体の活動支援を行い、文化・芸術活動の担い手を育成します。	○文化振興経費 ・伊賀市文化振興プランの推進 ・「市展いが」の開催	成果指標	市民美術展覧会 出品者数、鑑賞者数					
			成果指標の説明	市民が芸術に触れる機会の提供及び活動支援、文化芸術活動の担い手育成への取り組みの効果を測るための指標。市民美術展覧会の一般応募者と鑑賞に訪れた人数合計					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	1,542	1,233				2,000
2	文化施設維持管理 文化・芸術活動の拠点となる文化会館などホール施設の適切かつ効果的な管理運営を行い、施設環境の維持向上に努めます。子どもたちが次代の文化の担い手となるよう、優れた文化・芸術に触れ学ぶ機会づくりとして、ホール施設を活用した文化・芸術事業や、アウトリーチ事業を実施します。	○文化施設維持管理経費 ・文化会館ほか2施設、ミュージアム青山讃頌舎指定管理	成果指標	自主事業の入場者数全体に占める子どもの割合					
			成果指標の説明	伊賀市文化会館、あやま文化センター、青山ホールで開催される自主事業や、そこを拠点としたアウトリーチ事業の参加者数全体に占める中学生以下の子どもの割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	20	23				30
3	芭蕉翁顕彰 芭蕉翁の生誕地として、芭蕉文学と俳句文芸の調査研究、継承、啓発を行うとともに、関係団体や自治体と連携し、俳句の文化的価値を世界へ発信する取り組みを進めます。多くの人に親しまれる顕彰事業や芭蕉翁記念館の運営を行います。また、人づくり・まちづくりにつながる新芭蕉翁記念館の整備に向けた検討を進めます。	○芭蕉翁顕彰経費 ・第75回芭蕉祭の開催 ○芭蕉翁記念館・偲翁舎・蓑虫庵等管理運営経費 ・芭蕉翁記念館、蓑虫庵、偲翁舎などの運営 ○芭蕉翁関連施設改修事業 ・史跡芭蕉翁生家の保存改修工事完了	成果指標	芭蕉祭献詠俳句等応募数					
			成果指標の説明	芭蕉翁顕彰並びに芭蕉文学と俳句文芸の調査研究、継承、啓発、発信する取り組みの効果を測るための指標。俳句、連句、絵手紙、ポスター原画の応募数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(点)	36,829	38,713				40,000
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

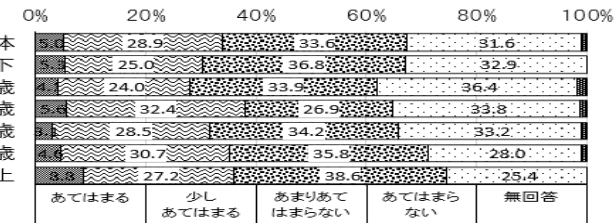
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R3)



参画度(R3)



- 傾向
- ・満足度は高いが、参画度は低い。
 - ・49歳以下の満足度が60%を超え、特に29歳以下の満足度が高い。
 - ・すべての年齢層において参画度が低い。

【CHECK②】			【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証			事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	市展いがでは、若年層の参加を促すため高校へ出向いて参加依頼を行うなどした結果、市内4校から54人(昨年度20人)の応募があり、文化芸術に親しむ裾野が広がった。	・引き続き、高校生の参加を促す取り組みを行う。 ・市展いがの開催情報を一層PRする方を検討する。	計画通り進捗している
	課題	・市展いがに高校生が参加できる支援が必要。 ・市展いがの観覧者が微減している。		
2	効果が出ている点	ホール部門(3ホールでのふんと主催・共催事業)での24事業における子ども(高校生以下)の参加率は37.2%となっており、文化芸術に触れる子どもの割合が高くなっている。	・文化ホールのアウトリーチ事業として、市内小中学校等に出向き文化芸術活動を行うことで、子どもたちが文化芸術に触れる機会を創り、文化施設の利用につなげる。 ・子どもたちが興味を示すような展示・取り組みを検討していく。	計画通り進捗している
	課題	展示部門(崇広堂・赤井家住宅・入交家住宅・青山讃頌舎)での事業(ふんと主催・共催)では26事業における子どもの参加率が10.0%となっており、来訪を促す仕掛けが必要となっている。		
3	効果が出ている点	芭蕉祭献詠俳句等の応募数が年々増加しており、俳句に親しむ人が増えている。	・市内小中学校に対し、郷土教育として、引き続き俳句への取り組みをお願いしていく。 ・近隣・ゆかりの市町村には、芭蕉翁生誕地として俳句の魅力などを発信する。 ・芭蕉翁顕彰会が行う、子ども向け・教員向けの俳句啓発の取り組みを支援する。	計画通り進捗している
	課題	献詠俳句児童・生徒の部応募数が年々減少している。少子化の影響もあると思われるが、次世代へ繋いでいくため、芭蕉のふるさととして俳句の普及に係る取り組みが必要。		
4				

伊賀流自治の視点

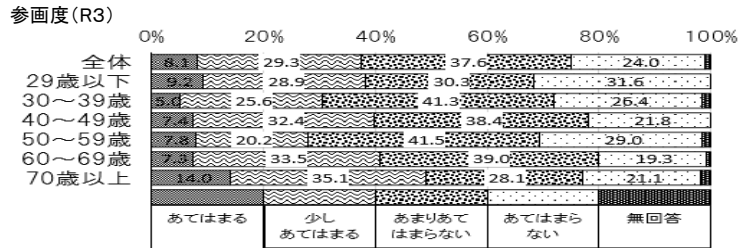
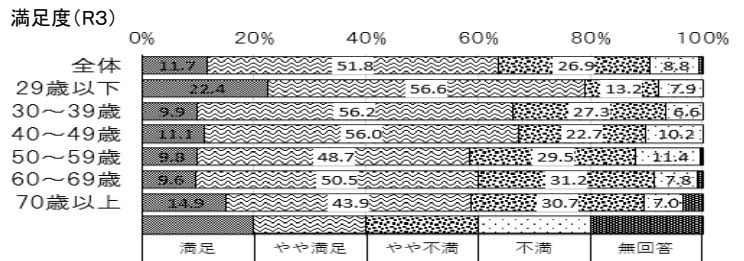
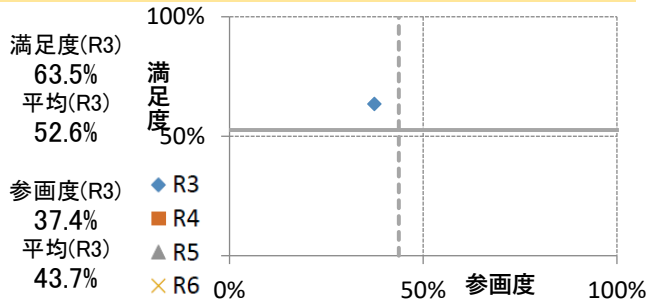
【主担当部局】

教育委員会

- ・貴重な歴史資料や文化財を調査・保存・管理し、それらに関する情報を発信・提供するとともに活用に努めます。
- ・豊富な文化遺産をまちづくりに活用することにより、文化財への理解や保護する心を育て、市全体の魅力発信につなげます。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021(R3)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	文化財保護 市内に所在する未指定・未登録の文化財の調査・記録を促進して保存すべきものを指定・登録するとともに、文化財の保存・活用についての総合的な計画策定に取り組めます。 建造物などの有形文化財は、管理者と協議のもと保存・修理し、防犯・防災施設の整備に努めます。また、祭礼などの民俗文化財は、後継者の育成と道具の修理等を支援します。さらに、史跡や名勝、天然記念物は、文化財の価値をより高めるために、環境整備や適切な維持管理、周辺環境の保全に努めます。開発に伴い失われる埋蔵文化財は、発掘調査を実施し記録保存を図ります。	○文化財保存経費 ・国史跡御墓山古墳・伊賀国庁跡・伊賀国分寺跡・上野城跡の草刈り等環境整備 ・特天然オオサンショウウオ保護業務 ・県天然記念物/ハナショウブ群落管理業務 ・国史跡上野城跡高石垣定点観測測量業務ほか ○文化財保存事業 ・重文観音提寺本堂・楼門の防災設備整備 ・重無民上野天神祭のダンジリ行事の伝承・活用事業、同保存管理事業 ほか ○伊賀市文化財保存活用地域計画策定事業 ・伊賀市文化財保存活用計画策定	成果指標	指定及び登録文化財数(累計)					
			成果指標の説明	市内のさまざまな文化財を調査・研究した結果、保存・継承すべきものとして取り組んだ成果を測るための指標					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(件)	500	502				520
2	文化財の活用 身近な歴史や文化財の成り立ちや価値を伝えるため展示施設の整備に努めるとともに、講座の開催やパンフレットの作成などを通じて普及啓発活動を行います。また、旧崇広堂などの文化財施設を積極的に活用し、地域の歴史や文化財の魅力を発信するとともに、史跡の価値や魅力をより高めるため、史跡整備の推進や維持管理に努めます。	○文化財保存経費 ・指定文化財説明看板設置 ・オオサンショウウオ観察会開催 ・企画展示(大山田郷土資料館) ○文化財施設維持管理経費 ・指定管理文化財施設(旧崇広堂・旧小田小学校本館ほか)における活用事業 ○文化財保存事業 ・親子で歩こう秋の城下町(上野天神祭のダンジリ行事活用事業) ○国史跡伊賀国庁跡保存整備事業 ・国史跡伊賀国庁跡の史跡整備 ・府中地区文化財ウォーク	成果指標	文化財施設 入館者数					
			成果指標の説明	旧崇広堂・旧小田小学校本館・入交家住宅・城之越遺跡・大山田郷土資料館の入館・入園者数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	17,108	16,787				18,000
3	歴史まちづくり 上野城下町、観音寺と大和街道島ヶ原宿、大村神社と初瀬街道阿保宿の3つの重点区域において、歴史的風致形成建造物の指定や修景助成、まち巡り拠点の整備や古民家再生事業などを推進することにより、歴史的な風致の維持向上を図ります。	○歴史的風致維持向上計画進捗管理事業 ・歴史的風致維持向上協議会の開催、中部歴まち会議・サミット出席等 ・登録有形文化財調査 ・啓発看板等設置	成果指標	歴史的風致維持向上計画事業 進捗状況					
			成果指標の説明	歴史的風致維持向上計画に掲載された個別事業の完了した割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	21	21				63
4	歴史資料の整理・保存・管理 『伊賀市史』編さん資料や、失われゆく歴史資料から地域の歴史と魅力を継承し、将来にわたって活用できるようにするため、資料の収集や整理作業を行うとともに、文書館の設置により公開・保存・管理体制の整備に取り組めます。	○歴史資料保存管理経費 ・地域において資料の継承が困難になっており、寄付申込者が増加している。寄贈資料の目録作成と翻刻作業に取り組む。 ・移転した事務所において、適切に保存・管理することができるよう、整備に取り組む。	成果指標	歴史資料 閲覧件数					
			成果指標の説明	歴史資料を収集・整理及び啓発・発信した結果を測る指標					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(件)	40	66				50

まちづくりアンケート調査結果



- 傾向
- ・平均と比べ、満足度が高い。
 - ・29歳以下の満足度が高い。
 - ・70歳以上の参画度が高い。

【CHECK②】

効果検証

【ACTION】

事務事業の改善案

【事業の進捗】

取り組み状況

効果検証		事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	・重文建造物の防災施設は本年度事業実施によりすべての文化財に設置できる。また、重無民上野天神祭のダンジリ行事にかかる機車等の保存修理等は、継続的に実施することにより着実に保存・継承が進められている。	計画通り進めている
	課題	・文化財の保存・修理は、多額の費用と期間を要する。伊賀市には、多数の文化財が所在するため、対応できる件数に限りがある。劣化している文化財の保存修理等に即応できない場合がある。	
2	効果が出ている点	・活用事業を継続的に実施することで事業が定着しつつあり、事業後のアンケートでも満足度が高い結果となっている。	計画通り進めている
	課題	・活用事業への参加者を増やすため、情報発信に取り組む必要がある。	
3	効果が出ている点	・重点区域(上野城下町区域・初瀬街道阿保宿・大和街道島ヶ原宿)のうち、上野城下町区域では、形成建造物の指定や登録有形文化財の登録推進、建造物の修理や美観向上事業により、歴史的建造物を活かしたまちづくりが進んでいる。	やや遅れている
	課題	・初瀬街道阿保宿、大和街道島ヶ原宿では、歴史的風致維持向上に向けた取り組みの成果が見える形となっていない。	
4	効果が出ている点	・『伊賀市史』編さん事業以後も、歴史資料を保存・管理する部署として認知されるようになり、資料の閲覧や照会、寄付申込が年々増加している。	計画通り進んでいる
	課題	・貴重資料や、身近な問題に関わる資料を広く周知する機会を設ける。	

伊賀流自治の視点

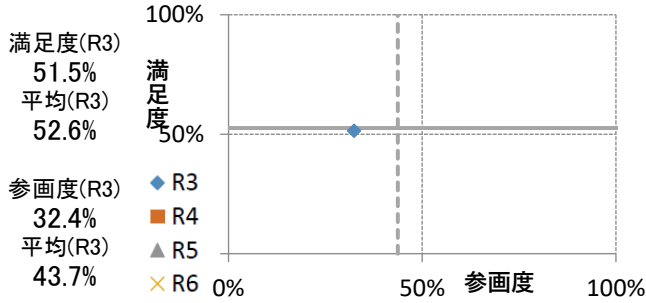
【主担当部局】

企画振興部

・誰もが時間や場所を問わず、スポーツに親しむ機会の提供に努めるとともに、安心してスポーツを行うことができる環境づくりに努めます。

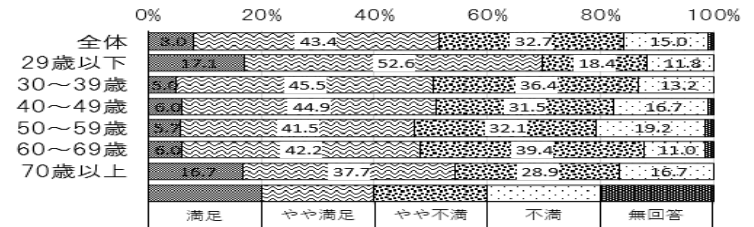
【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021(R3)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	スポーツ振興 市民一人ひとりが気軽にスポーツを楽しむ機会を創出するため、スポーツ推進委員活動やスポーツ組織・団体の活動を支援します。 スポーツ教室やスポーツイベントの開催を通じ、スポーツに親しみ、その魅力を身近に感じ、それぞれの立場でスポーツ活動に参画する機会の創出につなげます。	●スポーツ活動振興事業 ・スポーツ協会やスポーツ少年団等への活動支援 ・コロナ禍での感染防止対策を行いながらのイベント実施可否の検討を行い、代替大会(オンラインマラソン、写真展など)の開催 ●三重国体推進経費 ・伊賀市実行委員会負担金	成果指標	スポーツ活動実施率					
			成果指標の説明	まちづくりアンケートの中で、週1回以上のスポーツを実施している割合					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	28.8	53.6				43.2
2	スポーツ施設再編・維持管理 (仮称)スポーツ施設再編・整備計画に基づき、全市的な視点で類似施設の統廃合や機能分担を行い、安全で利用しやすいスポーツ施設の整備、修繕、改修を計画的に行います。 施設をいつでも気軽に利用できるよう、インターネットによる空き情報の検索・利用予約サービスの導入について検討します。	●体育施設整備事業 ・スポーツ施設再編・整備計画の策定 ・スポーツ施設の長寿命化改修工事 ・スポーツ施設の感染防止対策工事 ●体育施設維持管理事業 ・指定管理者委託料 ・施設維持管理修繕	成果指標	スポーツ施設稼働率					
			成果指標の説明	各スポーツ施設(プール、艇庫は除く。)の稼働率(利用のあった日/365日)の合計を施設数で除した数(平均稼働率)					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(%)	45.96	41.22				55.15
3			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

まちづくりアンケート調査結果

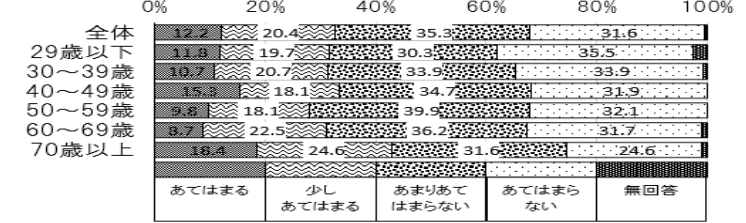


傾向
・満足度は、ほぼ2分されている。
・参画度は、全体的に低いが高齢者では高い。

満足度(R3)



参画度(R3)



【CHECK②】

効果検証			【ACTION】	【事業の進捗】
効果検証			事務事業の改善案	取り組み状況
1	効果が出ている点	スポーツ振興や気軽にスポーツに親しめる身近な組織として、スポーツ協会やスポーツ少年団等が組織され各種大会の開催や、競技スポーツの振興が図られている。 また、国体運営ボランティアへの広報・運営研修、さらに事業所や地域での炬火イベント実施を通して国体PRと気運醸成に加え郷土食レシピ作成などによる伊賀市の魅力のアピールを図った。	・市民スポーツフェスティバルのリニューアル 競技スポーツに加え、レクリエーション種目の追加 ・アフターコロナを見据え感染防止を図りながらイベントの新しい方法での実施 ・スポーツ少年団等事務局の外部委託 自主運営など関係する諸団体と継続して協議を継続して行う。	計画通り進めている
	課題	推進計画が目指すところであるスポーツ活動への無関心や価値観の多様化などでスポーツを実施されていない方はもとより、市民等が生活の中にスポーツを取り入れ、健康で豊かな生活を営めることを目指し、気軽にスポーツを楽しめる実施環境や機会を整え、成人の週1回以上のスポーツ実施率を高めていく必要がある。 また、アフターコロナ等を見据え「新しい生活様式」にも配慮し、イベントの在り方や各種団体の自主的な運営を図り組織の活性化を図るうえでも団体事務局の移管や支援方法の在り方について検討が必要である。		
2	効果が出ている点	老朽化が進み利用率の低い施設の廃止(4施設)を行うとともに、長寿命化改修やトイレの非接触型感染防止対策工事を施工し、安全で快適な利用環境の向上を進めた。	・再編整備計画による改修等の実施。また統廃合を行う施設について関係者との協議を行う。 ・施設利用率の向上 指定管理者による自主事業の活性化や新メニューの検討、HPなど施設情報の発信方法の見直し等を通じて、スポーツ施設を利用してもらえる情報発信を進める。 またスポーツ以外のイベント等で目的外に活用できる方法がないか研究を行う。 ・使いやすい施設の構築 予約システムなど他の公的施設の庁内検討状況を注視しつつ、指定管理者独自の簡素な方法での実施可能性について引き続き研究を行う。	計画通り進めている
	課題	・低グレードで利用率の低い小規模な施設が点在しており、再編整備計画に基づき集約化・多用途化を進め、長寿命化を行う施設について改修工事を実施する。 ・施設利用率向上の為、施設を知ってもらえる案内情報の提供が必要である ・利用利便性の向上のため、システム予約導入などの検討が必要。		
3				
4				

伊賀流自治の視点

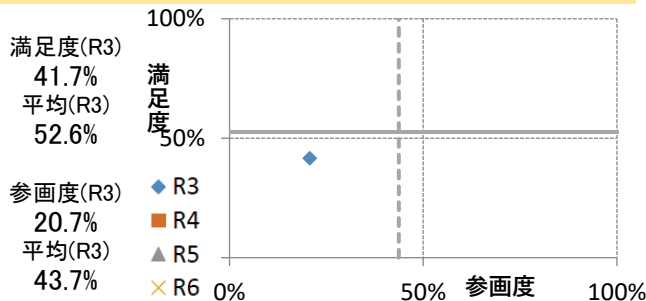
【主担当部局】

企画振興部

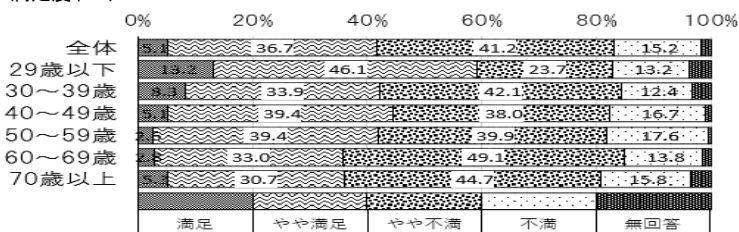
- ・学校等と連携し、若者のシビックプライドを醸成します。
- ・あらゆる主体がまちづくりへ積極的に参画できる機会を創出します。
- ・全国に向けて伊賀市の魅力や住みやすさをPRするとともに移住希望者へのきめ細かいサポートを行います。

【PLAN】		【DO】	【CHECK①】						
基本事業		2021(R3)年度の事務事業	KPI(成果指標)						
1	魅力発信 大学と連携し「忍者」に関する市民講座を開催することで、市民のシビックプライドの醸成と市外における認知度向上とファン獲得に努めます。また、ふるさと納税などを通じて、官民が一体となって伊賀市の特産品や地域資源をPRし、販路拡大や関係人口の創出に取り組みます。	シティプロモーション推進事業 ・ふるさと納税の推進 ・関係人口の創出・拡大	成果指標	ふるさと納税人数					
			成果指標の説明	伊賀市にふるさと納税をした年間延べ人数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	6,791	18,348				12,000
2	地域人材育成 小・中学校における郷土教育、市内高校と連携したキャリア教育により、地域を知り、地域との関わりを持続し、地域に貢献する人材を育成し、将来的なUターンや定住につなげます。また、若者がまちづくりに参画しやすい環境を整備し、教育機関や企業等と連携し、次代の主役となる人材の育成と地域の活性化を図ります。	地方創生推進事業 ・若者会議の推進 ・IGABITO育成(高校連携) 三重大学伊賀連携フィールド事業の推進	成果指標	20～30代の年間転入超過数					
			成果指標の説明	住民基本台帳における4月1日から翌年3月31日までの20歳から39歳までの転入者数と転出者数の差					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(単年)
			実績(人)	▲9	▲456				50
3	移住・交流 移住コンシェルジュによるワンストップ相談窓口のほか、東京、大阪等での移住相談会や移住プロモーションを実施するとともに、移住後も移住者同士の交流や地域との連携等、さまざまなつながりや活動のフォローを行い、伊賀市への移住促進に取り組みます。地域おこし協力隊を配置し、地域課題の解決や地域活性化の取り組みのサポートを行います。また、地域に根ざした活動を行うなかで将来的な隊員の定住をめざします。	移住・交流推進事業 ・移住コンシェルジュによるワンストップ相談の推進 ・地域おこし協力隊の推進	成果指標	相談を通じた移住者数					
			成果指標の説明	移住コンシェルジュによる相談を通じた移住者の人数。計画期間の累計人数					
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値(累計)
			実績(人)	88	422				362
4			成果指標						
			成果指標の説明						
				現状値	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	目標値
			実績()						

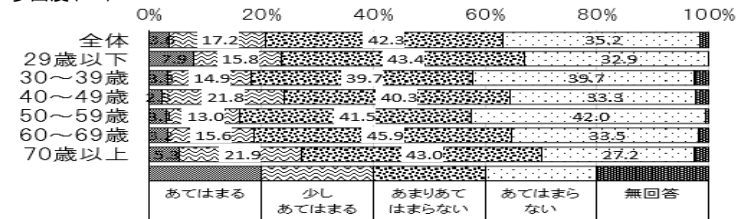
まちづくりアンケート調査結果



満足度(R3)



参画度(R3)



傾向
・満足度、参画度ともに低く、特に参画度が低い。
・若者の満足度は他の年代と比較すると高い。

【CHECK②】		【ACTION】		【事業の進捗】
効果検証		事務事業の改善案		取り組み状況
1	効果が出ている点	・ふるさと納税 さらなる寄附拡大とともに、ふるさと納税制度への地元事業者等のさらなる参画機会の創出を進める。 ・関係人口の創出・拡大 ふるさとサポーター制度を見直し新たなファン登録ツール(LINE)を立ち上げ、本市の最新情報を提供する体制整備を推進することにより、関係人口の創出、拡大を進める。		計画通り進捗している
	課題			
2	効果が出ている点	・若者会議、高校連携 自分たちの活動や取り組み、組織の自主運営とともに、学校間や市内外の様々な主体とのさらなる連携・交流を進める。 ・三重大学伊賀連携フィールド にぎわい忍者回廊プロジェクトの進展を見据え、既存の講座だけでなく、コロナ禍等、新たな地域課題の解決に向けた取り組みを展開する。		計画通り進捗している
	課題			
3	効果が出ている点	・移住コンシェルジュによるワンストップ相談の推進 コロナ禍の影響により、移住希望者との対面での相談会が開催できず、オンラインのみとなっていることから、今後は対面及びオンラインで水準の高い相談体制を構築する。 ・移住コンシェルジュによる相談窓口の推進により、令和4年度も前年度以上に相談件数を伸ばすための情報発信等を推進する ・地域おこし協力隊については、受入希望地域の確保や地域との関係性の向上に向けて、協働・支援体制の強化に務める必要が有る。		計画通り進捗している
	課題			
4	効果が出ている点			
	課題			